
目 次

会長あいさつ・・・・・・・・・・	1	理事会報告・・・・・・・・・・	6
日中社会学会第31回大会について	3	在中会員レポート・・・・・・・・	7
第40回 総会報告・・・・・・・・	3	事務局からのお知らせ ・・・・	9
理事会報告・・・・・・・・・・	5		
第41回 総会報告・・・・・・・・	5		

■会長あいさつ

南 裕子

このたび第8代の日中社会学会会長を務めさせていただくこととなりました。昨年度までは庶務担当理事（事務局）を担当しており、決してよいことではありませんが、学会運営にも随分長くかかわってきたことになります。ただ、事務局としては、学会のルーティン化した活動をいかにこなすかといういわば目先のことに追われてしまっていた感があります。それは、近年、本学会が「持続可能な学会運営」という大きな課題に直面しているためです。

私自身もそうですが、学会理事の方々も本務校での様々な業務が増える一方で、意欲はあっても学会のための時間を捻出することが容易ではない状況にあります。しかし、そうした中で、選出されたことに対して高い責任感を以て学会運営に携わってくださっています。私自身が学会にコミットしてきた最大の理由は、院生時代に入会して今日まで、日中社会学会で多くを学び、研究仲間と出会えたことへのいわば恩返

しのような思いです。

しかし、恩や責任感に依存するだけでは、組織は限界を迎えるでしょう。何か新しい創造ができる場として、役員も含めた各会員が日中社会学会にかかわることを楽しみ、意義を感じられるよう、学会を活性化していく必要性を、現在ますます強く感じています。

「持続可能な学会運営」は依然として課題ではありますが、それ以上に、何のために持続可能性を追求するのかを見失わぬよう、あらためて気を引き締めて、会長の職にあたらせていただく所存です。

また、昨今、中国をめぐるのは、国際関係やその国内政治（統治）をめぐり、我々研究者のスタンスをも問われるような厳しい状況も確かに存在しています。しかし、ここで我々の原点に立ち返ってみたいと思います。それは会則の第2条にある「本会は、日中両国の社会学界の交流を図り、両国の社会学の発展に寄与することを目的とする」ことです。

私は、この「交流」の前提として、日中社会学会会員には、次のような共通する中国研究の姿勢があると理解し

ています。それは、出発点となる問題意識はさまざまですが、中国社会に深く分け入り、観察し、中国の人々と対話を重ねながら、自身の中国理解の枠組みを構築し、さらには現代社会への省察を深めようともがいていることです。そして「交流」とは、このようにして得られた研究成果について、学会メンバーのみならず、中国の社会学研究者とも真摯に学術的な意見を交わしあうことです。そうすることによって、議論に参加する人々が、それぞれに、問題をよりの確に把握、分析する力を高めることができ、自らを相対化する新しい気付きを得られます。そうして得られたものを、次には、教育や出版の形で、学会の外に向けて発信することが目指されるのです。

会則の文面では、「両国」とありますが、排他的になる必要はありません。会費を納入してメンバーとなる組織ではありますが、一方で、これまでのように、目的を共有する人々による境界の曖昧な開かれたコミュニティでもあり続けたいと思います。

以上のような思い・理念を、本学会の各種活動において実現していきたいと考えています。一言でいえば、研究の場として、その土俵の充実であり、それは、前会長である首藤明和先生が目指されていた方向性の継続であると認識しています。

具体的には、以下の3点にまず重点的に取り組みたいと考えています。

①学会誌『日中社会学研究』の特集、そして学会大会シンポジウムの企画の一層の充実のための方策の検討。担当理事間の連携等の組織的な問題と共に、

学会としての研究活動の強化が必要とされます。

②研究会活動の活性化。上記①につながるよう、学会として戦略的に研究会活動をより活発に展開することが求められると考えます。また、若手研究者育成のための研究会開催や会員の研究プロジェクトの成果発表のプラットフォームとしての機能を本学会が持つことができればと思います。

③この数年で中日社会学会専門委員会との学術交流が定着してきました。専門委員会の方々にも上記①や②に参画していただくようなことも含めて、今後の交流を一層強化したいと考えています。

日中社会学会という組織は、他学会と比較すると、会員同士がフラットな関係にあり、モノが言いやすい、議論をしやすい特徴があるように思っています。会員の皆さんにおかれましても、入会履歴の長短にかかわらず、いろいろなアイディア、企画を出していただき、そしてその実現のために共に汗を流していただければ大変嬉しく存じます。

学会運営へのご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■日中社会学会第31回大会について

日中社会学会第31回大会が、東京農工大学において、2019年6月1日(土)～6月2日(日)にかけて、下記のとおり開催された。

報告内容は、日中社会学会ウェブサイトをご参照ください(メニュー「大会」より日中社会学会第31回大会報告要旨/会員パスワードが必要です)。

■第40回総会報告

開催日：2019年6月1日(土)

開催場所：東京農工大学

陸麗君会員が議長に選出され、議事に入った。

第1号議案 2018年度事業報告

以下の各項目について、事務局および各担当理事より報告がなされた。

1. 研究大会の開催
2018.6.2～6.3(筑波大学)
2. 冬季研究集会開催 2018.12.9(成城大学)
3. 機関誌『日中社会学研究』第26号編集発行(2018.12、300部)、第27号編集
4. 機関誌『21世紀東アジア社会学』第10号編集(2019.6発行予定)
5. 「ニューズレター」編集・発行 79号(2018.5)、80号(2019.4)
6. 理事会開催 2回 2018.6.2、6.3(＋ネットによる持ち回り理事会7回)
7. ホームページ、メーリングリストの運営

8. 学会誌の電子化公開：21世紀東アジア社会学』9号(J-stageへの登載)
9. 会員概況 入会15名 退会0名
現会員 239名 一般155名(うち顧問2名)、学生84名 *2019年5月末

第2号議案 2018年度会計報告

会計担当理事より、当日配布された資料にもとづき、Ⅰ. 一般会計報告、Ⅱ. 第30回大会・第40回総会特別会計について、報告がなされた。

第3号議案 2018年度監査報告

監査結果について報告がなされた。決算報告、会計監査報告を受け、2018年度決算が賛成多数で、承認された。

Ⅰ. 一般会計報告

収入総額	2,075,612
支出総額	703,479
差し引き残額(次年度繰越金)	1,372,133
※残額内訳	
郵便局定期預金	0
郵便振替口座	0
PayPal口座	0
郵便局普通口座	1,358,774
現金	13,359
合計	1,372,133

収入の部			
費目	予算額	決算額	増減額
前年度繰越金	1,166,607	1,166,607	0
年会費	800,000	836,000	36,000
機関誌販売	6,000	3,000	▲3,000
雑収入	100	70,005	69,905
合計	1,972,707	2,075,612	102,905

Ⅱ. 第30回大会・第40回総会特別会計

日時 2018年6月2日・3日
会場 筑波大学第一エリア(筑波キャンパス)
大会会計担当者 石井健一

収入総額	453,000	
支出総額	388,004	
残額	64,996	学会会計に返金

収入の部

大会参加費	95,000	会会員(3000円)35名、非会員(3000円)5名、学生(1000円)10名、筑波大学生(うち2名は会員、0円)19名
懇親会費	158,000	一般(4500円)25名、学生(3500円)13名
大会補助	200,000	学会一般会計より
計	453,000	

支出の部

事務費	3,119	名札、ペン、はさみ、など文具
運営費	2,276	スタンプ作成費
雑費	150	コピー代
通信費	1,123	宅配便(学会事務局宛)
交通費	540	学生のバス代(つくば駅への往復)
会場使用料	91,568	筑波大学への支払い
シンポジスト旅費	0	
懇親会費	176,472	
支払い手数料	756	銀行振り込み手数料 2回分
謝金(学生)	112,000	前日準備および当日時給1000円(学生により勤務期間数×計算)
計	388,004	

第4号議案 理事の承認

理事候補について承認され、新会長に南裕子会員就任が承認された。

(1) 直接選挙による役員候補

理事：浅野慎一、池本淳一、坂部晶子、首藤明和、唐燕霞、中村圭、中村則弘、陳立行、南誠、李妍焱、南裕子

監査：櫻井義秀、松木孝文

(2) 理事推薦による理事・会長の承認

第5号議案 2019年度事業計画案

以下の項目について事務局から説明がなされた。

1. 研究大会の開催：2019年6月1日～2日、開催校：東京農工大学
2. 研究集会開催

3. 『日中社会学研究』：第27号編集発行、第28号編集
 4. 学会誌電子化公開（『日中社会学研究』：第25号・26号）
 5. 『21世紀東アジア社会学』：第10号発行、第11号編集
 6. 「ニューズレター」発行（2回）
 7. ホームページ・メーリングリストの運営、コンテンツ充実
 8. 会員名簿の作成
 9. 理事会開催：2回
 10. 他組織・海外研究者とのネットワーク構築、連携
- ・中日社会学学会専門委員会、社会学系コンソーシアムなど

第6号議案 2019年度予算案

事務局から説明がなされ、賛成多数で承認された。

収入の部		
費目	予算額	参考：前年度予算
前年度繰越金	1,372,133	1,166,607
会費収入	800,000	800,000
機関誌販売	6,000	6,000
雑収入	100	100
合計	2,178,233	1,972,707
支出の部		
費目	予算額	参考：前年度予算
『日中社会学研究』制作費	400,000	430,000
事業費(学会誌電子化)	300,000	300,000
事業費(その他)	15,000	15,000
事務費	20,000	20,000
通信費	100,000	80,000
会議費	20,000	20,000
事務局補助謝金	30,000	30,000
大会補助	200,000	200,000
年会費	10,000	10,000
予備費	1,083,233	867,707
合計	2,178,233	1,972,707

第7号議案 次年度大会・総会の開催地・開催校について

会津大学（大会実行委員長・池本淳一会員）での開催が報告された。

■理事会報告

日時：2019年6月1日（土）、6月2日（日）

場所：東京農工大学

出席：浅野慎一、江口伸吾、伍嘉誠、坂部晶子、首藤明和、鈴木未来、松木孝文、中村圭、中村則弘、奈倉京子、南裕子

（１）総会議案 関連

・『日中社会学研究』Jstageへの移行について

編集委員会の内規が必要。次期編集委員会の課題とすることにした。

・大会の託児補助制度をアナウンスしているが、利用実績がない。使いやすい制度の提案について引き続き模索する。

・次期大会開催校を会津大学（池本会員）にお引き受けいただいた。

（２）入会申請 ２件あり承認された。

（３）各担当理事からの申し送り

理事再編につき申し送りを行った。

（４）『日中社会学会』編集委員非会員への査読依頼について

学会員外への査読依頼のために、薄謝を制度として設けることを検討した。

（５）中日社会学会との交流、連携について

互いにとりよい形を模索していくことが大切。中国では日本留学組が先生になってがんばっている。研究のよい機会をつくることを検討する。

（６）その他

次期役員の構成について議論がなされた。

■第41回総会報告

日時：2019年10月13日（日）

場所：成城大学

臨時総会が上記の日程で開催された。西原和久会員が議長に選出され、議事に入った。

第1号議案 会則の改正

①第1条に（３）を追加

第1条

（１）本会は、日中社会学会という。

（２）本会は、日中両国の社会学界の交流を図り、両国の社会学の発展に寄与することを目的とする。

（３）本学会の所在地は、東京都府中市幸町3丁目5番8号 国立大学法人東京農工大学 聶海松研究室内とする。

②第6条（２）の文言を、1字削除、5字追加する。

（旧）会計・名簿担当理事→（新）会計担当理事、名簿担当理事

変更後の第6条（２）

（２）理事は、会長を補佐し本会の運営に当たる。

理事の互選により、庶務担当理事、会計担当理事、名簿担当理事、ホームページ担当理事、『日中社会学研究』編集担当理事、『21世紀東アジア社会学』編集担当理事、研究担当理事、ニューズレター担当理事、大会担当理事を定める。必要に応じて、任期中に限り、その他の担当理事及び新たな理事を置くことができる。

③第11条(2)の文言を、1字削除、5字追加する

(旧) 会計・名簿担当理事→(新) 会計担当理事、名簿担当理事

変更後の第11条(2)

事務局は、庶務担当理事、会計担当理事、名簿担当理事、ホームページ担当理事、ニューズレター担当理事によって構成される。

以上、賛成多数により承認された。

■理事会報告

日時：2019年10月13日(日)

場所：成城大学

出席：南裕子、中村圭、西原和久、轟海松、石井健一、江口伸吾、浅野慎一、陳立行、李明伍

臨時総会にあわせて理事会が開催された。

(1) 第41回 総会(臨時総会)議案
会則の改正(3箇所)が審議された。

(2) 理事役職名の変更

会計担当を轟海松・南誠の2名分担制から、会計担当理事を轟海松、名簿担当理事を南誠に変更する。

(ただし職掌は現況と変わらず)

(3) 新入会員の入会審議について
ホームページや学会誌をみて、学会員の紹介者はいないが入会希望者の扱いについて、会則の変更は行わず、現況通り理事会メール審議にて承認する。但し審議に必要な詳しい職歴、業績、研究内容等の記入を義務化し、入会フォームに記入することとした。

(4) 『21世紀東アジア社会研究』保存分の冊子体作成にともなう費用および今後の保存運営について

・今号は冊子体(抜き刷り)の作成を告知せずに募集しているので、新たに費用をとまなう作成はしない。

・次号以降、希望者は、自分でコピーして冊子体の作成ができるように、表紙、裏表紙、奥付、背表紙等のデザインも含めたPDFの作成をする(担当 石井会員)。

・冊子体としてよりも、ウェブジャーナルとしての地位の確立を目指していくこととした。

(5) 中日社会学会会員との親交・会費徴収について

・次年度大会に参加希望の方は、中日社会学会の方で参加者の取りまとめをしていただく。

(6) 『日中社会学研究』編集委員会よりの審議事項

・会員の方、中日社会学会会員の方に査読を依頼するように努めるが、非会員に依頼せざるを得ない場合は、薄謝(5000円)を進呈する。27号より適用。

・社会学以外の専門の方に査読を依頼する場合、社会科学の論文としての審査であり、社会学的見地からも査読を行う旨を依頼文に明記する。

(7) 次年度大会について

1. 次年度研究大会は、2020年6月13日14日に、会津大学(会津若松)および喜多方の2拠点で開催することとした。

・1日目大会終了後、会津大学から懇親会開催の喜多方への移動は、大型観光バスをチャーターして一斉に移動。

・喜多方での宿泊推奨を徹底周知。

2. 大会シンポジウム（学会／開催校） 企画について

- ・シンポジウム、講演もしくはミニシンポジウムは、2日間ともに開催。
- ・学会の存在意義を問うような、よりアカデミックなテーマ設定のシンポジウムも開催する。

■ 在中会員レポート

中国の大学講師として一年の所感

李之易（杭州師範大学）

私は2007年の高校卒業後に来日し、学部時代は立命館アジア太平洋大学で4年間を過ごした。立命館大学で修士号を取得し、その後名古屋大学で博士課程に飛び込んだ。2018年に卒業、2019年1月浙江省杭州師範大学で講師として勤務してから、一年程がたった。思い返せば2007年に日本に留学してから現在まで12年、高校時代に勉強した杭州市は、今大きく変貌し、私の記憶の中の町の面影もなくなり、別世界の大都市となった。

当時（2004年）通っていた高校は丁度現在勤務している大学の近く、市街地から30キロぐらい離れて、かなり偏僻なところにある。高校は全寮制であり、中心部への公共交通手段もほとんどなく、外出といえば友人数人と月一度「黒車」（日本の白タクのようなもの）に乗って中心部にショッピングに出かけることだけであった。2022年、アジア競技大会が杭州市で開催される予定となり、それに合わせ、杭州市の

再開発も急速に進んでいる。ここ数年杭州市の地下鉄は各方向に伸び、中心部へのお出かけや、当時あんまり観光出来なかった西湖への散歩も気軽に行けるようになった。

勤務している杭州師範大学の立地について、他にいくつか目を引き付けるところがある。キャンパスの敷地は広く、およそ二百万平方メートルある。新しく建設された地下鉄が大学が面している道に沿い、大学の東門、正門、西門にそれぞれ一駅がある。さらに道一本挟んで反対側には、世界でも有名になった巨大IT企業アリババの本社がある。近くの商業施設に行けば、大学生とプログラマー達があふれて、若さとエネルギーを身を感じる。

アリババの創設者馬雲氏は杭州師範大学のOBであり、母校に多額の寄付金を出している他に、様々な新規IT事業を杭州市内や大学内でテストをしている。そのおかげで杭州は凄まじくIT化し、中国のほかの都市でなかなか目にしない技術やサービスなどが体験できる。その中に市民たちに最も好評を受けているサービスの一つ、公共サービス一体化プラットフォームをご紹介します。アリババは市や企業などと連携し、市民生活で常用するサービスを電子化した。公共料金の納付、各種行政申請、手続、各種施設や公共交通機関の利用、切符やチケットの購入など、様々なことをアプリで行うことが出来る。私も杭州市に引越す時、転入転出申請、証明書の発行など、アプリで手続を行い、役所に行って本人確認と受け取りだけで完結できた。大学のキャンパス内でも、いろんな技術がテ

ストされている、話題のドローン配達や無人運転配達車もその内である。コーヒー一杯を窓辺に届けてくれる SF 作品の中の生活が遠くないかもしれないと、時々感じる。配達といえば、大学内の教師、学生、スタッフ、総勢3万人の生活を支えている物流システムを是非ご紹介したい。皆様ご存知の通り、中国のネットショッピングは近年シェアを増やしつつあり、消費者の買い物習慣のネット化も進んでいる。特に大学生世代の買い物はほとんどネットで済ますうえ、少量でも配送料無料のため、皆、気軽に利用している。毎週5-6回荷物を受け取るというのは普通である。多い時には、一日に全学では2万件の荷物が届いている。普通の配達システムでは、配達員や宅配ボックスなど、とても対応出来る量ではない。そこでアリババ傘下の「菜鳥駅」という物流システムが導入された。大学内の数箇所にコンビニ2、3か所分くらいの広さの集配センターが設置されている。その中に大量の棚が並べられ、配達員は荷物をセンターに届けば、受取人にショートメッセージで棚スペースと認証コードが知らされる。受け取る際に、センターの指定の棚で荷物を見つけ、荷物、認証コード、本人確認を端末を通せば完了。人と荷物の入退室はスマートカメラで管理されており、セキュリティ上の対策も万全である。顔認証の登録をすれば、本人確認の必要もなくなる。こうした利便性向上の中、プライバシーへの懸念の声も上がっている。2019年11月、杭州市動物園が新しく年間パスポート申請する際、顔認証情報提供が必要と

決めた措置に対して、政府機関以外の顔認証情報強制要求はプライバシー侵害であると主張した民事訴訟案件があった。これが中国の顔認証に関する最初の訴訟である。この案件の前でも、法学、社会学、政策科学など、様々な分野で顔認証やビッグデータなどの技術の応用についての論議があり、今回の一件で、学界の研究がさらに活発になりそうである。

それでは、学界について、もう少しお話したい。私は学部生時代から日本に留学しにきて、中国の学界には疎い。中国に戻ったあと、様々な違和感を克服しつつ、試行錯誤を繰り返しながら、研究をしてきた。また世界のどこにおいても、学界の競争は激しく、絶え間なく努力することの重要性を改めて感じている。近年、中国の学界は世界基準を導入し、国際化が進展している。そのため教員に対し、競争色が強いテニユアトラック制度を適応した。3~6年の間で、一定量の実績を挙げなければ、契約を更新しない基準となる。社会科学分野の実績は主に二種類ある。一つはCジャーナルの論文掲載。CジャーナルとはC S S C I リストに含まれる学術ジャーナル。リストは毎年見直しが行われるが、総数は約500前後で維持している。ジャーナルの数は少なくないとかんじるが、じつに各分野に振り分けられるジャーナルが非常に限られている。例えば私が専攻している宗教学に関するジャーナルは三種、ジェンダー学に関するジャーナルは一種のみ。各大学はさらにCジャーナルのランク付けを行い、トップの1割を一級ジャーナル、次の2割を二級ジャ

ーナルと指定する。私が所属する大学が新任教師に求める実績は、3年以内に三つのCジャーナル論文の掲載とその内一つは二級以上の掲載である。帰国教員の増加に伴い、欧米中心のSSCIジャーナルの掲載も認めるようになった。残念ながら、日本の学術ジャーナルは未だ含まれていない。もう一つの実績は中国国家社会科学基金の当選。これは日本の学術振興会科研費制度と似ている制度である。毎年12月末、中国国家哲学社会科学庁はガイドラインを公開し、その中には国が重視している研究課題約2000タイトルが載っている。そのほとんどは現在中国が面している社会問題によって構成されている。教員や研究者達が自分の研究分野にあてはまる課題の申請を提出する。全体の約13%だけが許可される。ほとんどの大学は新任教員に定められた期間中に国家課題許可を取得するように要求している。そのため毎年の旧暦正月の間は教員・研究者達が申請資料を準備し、一番肝心な時期ともいえる。熾烈な競争が繰り広げられるイメージである。

最後に世界中に大きな影響を与えた新型コロナウイルスと浙江省の現状を少しお伝えする。2月5日の現時点では、杭州市にも、百数十例の感染が確認された。幸い知人友人の周りに感染者の話は出ておらず、事態が一日でも早く終息するように祈っている。平年ならば新学期がすぐ始まる時期で、教員や学生達が帰省した実家から帰って来るはずだが、感染拡大を防止するため、現在許可なしに大学に進入することもできない状態である。無期限に学

期開始を延長するわけもいかいないため、大学側から、すべての講義をMOOC (Massive Open Online Course) を基準に準備する要請があった。MOOC授業のシステムは以前も利用しているが、まさかこんな時にフル活用されると思わなかった。現在私は杭州市に戻ることも出来ず、杭州に隣接する実家の嘉興市にいる。不要な外出を控えて、家にこもり、前述の社会科学基金の申請資料やMOOC講義の内容を準備する毎日である。

また事態が発生した直後、武漢には日本の様々な個人、団体から義援金や、マスクなどの物資が送られてきた。特に学部生時代滞在大分県の大分市は武漢の友好都市であり、たくさんのマスクや応援メッセージを武漢に送った。また博士課程時代の名古屋大学でも、学生団体が素早く行動し、支援物資の調達に努力した。ここで日本にいらっしゃる皆様に改めてお礼を申し上げます。

事態が終息し、一人でも多くの患者が無事治るように心からお祈りします。

■事務局からのお知らせ

◇出版のお知らせ

高橋孝治『中国社会の法社会学―「無秩序」の奥にある法則の探求』明石書店

◇「中国社会研究叢書」も続々出版されております。

李妍焱『下から構築される中国―「中国」的市民社会』のリアリティ』明石書店

奈倉京子編著『中国系新移民の新たな移動と経験―世代差が照射する中国と移民ネットワークの関わり』明石書店

石井健一・小針進・渡邊聡『日中韓の相互イメージとポピュラー文化―国家ブランディング政策の展開』明石書店

南裕子・閻美芳編著『中国の「村」を問い直す―流動化する農村社会に生きる人びとの論理』明石書店

穂山新『近代中国の救済事業と社会政策―合作社・社会調査・社会救済の思想と実践』明石書店

鈴木英明編著『東アジア海域から眺望する世界史―ネットワークと海域』明石書店

■事務局からのお願い

□メルマガ届いていますか？

本学会では、google グループによるメーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、不定期に「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。メールマガジンが届いていない方や、未登録の方、また、メールアドレスに変更のあった場合は、事務局までお知らせください。

□情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

□会費納入のお願い

学会活動は皆さまからの会費で支えられております。2019 年度までの会費納入をお願いいたします。一般会員 6000 円、学生会員 4000 円です。

日中社会学会・郵便口座
口座記号番号：00140-9-161801
加入者名：日中社会学会

*インターネットバンキング等、銀行からのお振込みの場合は、下記になります。

店名：〇一九店 店番：019
口座番号：0161801

*海外からは paypal での納入も可能になりました。詳細につきましては、事務局までお問い合わせください。

□異動、住所変更の際はご一報を！

異動、住所変更のあった方は、新しいご所属、メールアドレス、郵便物送付先等の情報を事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

日中社会学会ニューズレター No.82

編 集 :坂部晶子(名古屋大学)

発 行 :日中社会学会事務局

〒186-8601 東京都国立市中 2 - 1

一橋大学・南裕子研究室

事務局長：中村圭（成城大学）

info@japan-china-sociology.org

○日中社会学会・公式 HP

<http://www.japan-china-sociology.org/>

発行日：2020 年 2 月